

国見ヶ丘：概要・瓊瓊杵尊の像

あらゆる方向の眺望を持つ国見ヶ丘（国見の丘）は、高さ 513 メートルから九州の有名な山と谷の景色を眺めることができます。日本のいくつかの神話の舞台である高千穂盆地は東にあります。西側には、日本最大の活火山、阿蘇山が見えます。北部の範囲には、祖母山（1,756 メートル）、南にはもう 1 つの伝説の山、二上山があります。しかし、ここで特に興味深いのは、高千穂の有名な棚田の眺めです。棚田は、高千穂盆地とともに、素晴らしい雲海に包まれています。9 月から 10 月にかけて自然に発生するこの現象は、盆地に沈む厚い雲の覆いです。国見ヶ丘の頂上からの景色を見下ろすと、まるで雲の果てしない海の景色の中で船に浮かんでいるように見えます。3 か月の間、15° C を超える気温が風のない朝に湿度を閉じ込めたときに、雲に隠れなければ場合、幸福に漂流しているのをみることができます。国見ヶ丘にまつわる伝説のなかで、太陽の女神、天照大神の孫である瓊瓊杵尊が現れます。皇族をつくるために彼をこの地に送りました。彼と彼の側近が不可解な霧に出会ったとき、彼は貴重な（高）と多数（千）の稲穂（穂）を投げたので、霧を壊して彼が到着し、この高千穂の町の名前の起源となりました。国を見渡す丘の頂上にある彼の像は、彼の伝説的な偉業を記念して彫刻されました。